

大学院体験記

住元 庸二（平成 21 年卒）

大学院へ帰学を検討されている方のきっかけになればと思い、大学院体験記を記させていただきます。

私は広島大学を卒業後、JA 尾道総合病院で初期研修後、広島市民病院で 2 年間、安佐市民病院で 2 年間循環器内科医として勤務した後、平成 27 年 4 月に広島大学大学院に入学しました。

大学院 1 年目では、主に病棟管理、研修医の指導を行い、毎朝病棟で行われるカンファレンスや週 1 回の全体カンファレンス、教授回診を行う中で、自分のやりたい研究を模索し、以前より興味があった虚血性心疾患を中心とした大学院生活を送ることに決めました。

栗栖先生御指導の下、研究デザインの構成・データの取り方・得られたデータの解釈・統計解析手法・論文執筆等全ての面で御指導いただき、『心房細動における細動波の振幅と冠血流の関係』というテーマで学会発表・学位論文として卒業させて頂きました。

また、今では当たり前前の治療となっておりますが、私が大学院に所属している間に広島大学病院でも TAVR（Transcatheter Aortic Valve Replacement、経カテーテル大動脈弁植え込み術）を中心とした SHD（Structural Heart Disease）が開始となり、福田先生を中心としたストラクチャーチームが発足され、幸いにもその一員に加えて頂く機会を与えて頂き、連続 100 例を越す全ての症例に参加させて頂きました。その中でも広島大学病院の TAVR 治療成績は素晴らしいもので、Heart Team の大切さを痛感しました。

そして、虚血性心疾患グループの日常業務である冠動脈カテーテル治療につきましては、石橋先生の治療を間近で拝見し、患者さんへの配慮はもちろん、PCI における技術的な面を非常に多く教えて頂いたことは現在の臨床医としての基盤となっております。

広島大学大学院での生活を通し、素晴らしい上級医の先生方と一緒にできたことは、現在の自分の糧となっており、今後の臨床現場に生かし、今後も成長し続けるよう日々努力して行きたいと思っています。

最後になりましたが、ご指導頂きました循環器内科の先生方にこの場を借りて御礼を申し上げます。



第 112 回日本循環器学会中国・四国合同地方会 若手研究者奨励賞受賞



TAVI 100 例記念パーティー



2018 年 AHA